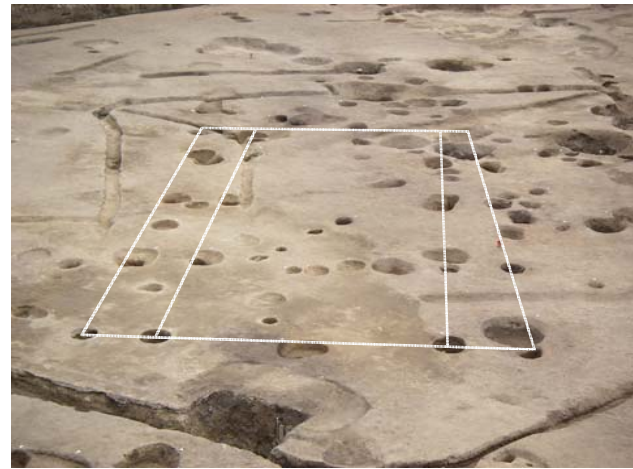


檜原遺跡（第2次）発掘調査 調査説明資料

2006年10月25日（水曜日）
財団法人山形県埋蔵文化財センター



掘立柱建物跡検出状況

<調査要項>	
遺跡名	檜原遺跡(ひのきばら)遺跡
遺跡番号	平成8年度新規登録
所在地	南陽市大字中落合字檜原他
調査委託者	国土交通省東北地方整備局 山形河川国道事務所
調査原因	国道113号赤湯バイパス改築事業
調査面積	約7,400㎡
現地調査	平成18年5月9日～11月2日
遺跡種別	集落跡
時代	奈良・平安時代、中世
遺構	掘立柱建物跡・井戸跡・竪穴状遺構・土坑・溝跡
遺物	土師器・須恵器・中世陶器・木製品・古銭
調査担当者	調査研究部長 尾形與典 調査研究主幹 長橋 至 専門調査研究員 伊藤邦弘 主任調査研究員 今田秀樹 調査員 深澤 篤
調査協力	置賜教育事務所 南陽市教育委員会

1 調査の概要

檜原遺跡は、南陽市南部の沖郷地区に位置します。第2次発掘調査は、国交省東北地方整備局山形河川国道事務所の「国道113号赤湯バイパス改築事業」に伴うものです。

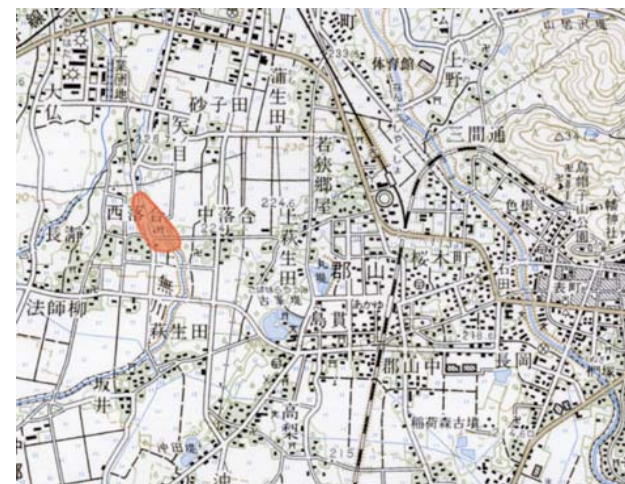
この事業計画を受け、平成8年度に県教育委員会が計画路線内を踏査して詳細分布調査を実施した結果、檜原遺跡が確認され登録されました。その後、平成17年度に路線内の試掘調査がなされ、県教育委員会と山形河川国道事務所との協議が行われました。工事にかかる部分の発掘調査について、(財)山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、記録・保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなりました。

調査は、5月9日～11月2日の約半年にわたり実施しています。今回の調査区域はA区とB区で、次年度には、C区の調査が引き続き行われます。調査して得られた記録類や遺物は、センターでの整理作業の後、発掘調査報告書としてまとめられ、平成20年度に刊行される予定です。

2 立地と環境

遺跡は、吉野川と織機川に形成された扇状地の扇中央部にあたり、標高は約222mを測ります。遺跡内を流れている上無川の自然堤防上の微高地にあり、遺跡の堆積層には、砂やシルト・泥炭質の粘土などが堆積しています。

ここ南陽市には数多くの板碑が残存していて、宮内熊野神社、経塚造営の営みなどからも、庶民信仰の高まりと宗教行事の民衆化が広く浸透していたであろうことが想起されます。(石井浩幸ほか 2006 「鶴の木館跡」) A区の南約200mにも板碑があって、「永仁」(1293～1299)の紀年銘が読み取れます。



遺跡位置図



調査計画図



土師器



須恵器



中世陶器



古銭

3 検出した遺構と遺物

今回の調査では、掘立柱建物跡・井戸跡・堀跡・区画溝跡・竪穴状遺構・溝跡・河川跡・土坑・柱穴などの遺構が見つかりました。

A区では、中世(鎌倉から室町時代にかけて)を中心とする遺構が確認され、中央部では掘立柱建物跡4棟が密集して見つかりました。互いに重なり合っているものもあり、建て替えが行われたようです。付属する施設として、木製の枠を持つ井戸跡1基の他、6基の井戸跡と堀跡を確認しました。また、北東部では、幅およそ2m、深さ80cmほどの区画溝が見つっています。

B区の遺構は平安時代のものです。竪穴状遺構が3基、他に溝跡・河川跡などが見つっています。河川跡からは、土師器・須恵器が多数出土しました。特筆すべきは、床や壁が真っ赤に焼けた10数基の遺構が見つかったことです。多くは方形で、床に粘土を貼って火を使った様子も確認されています。

遺物は、土師器・須恵器・中世陶器・古銭・近世陶磁器の他、縄文土器や石鏃も出土しました。また、柱穴からは礎板や礎石も見つっています。土師器・須恵器はほとんどが坏や甕です。中世陶器は在地系のもののようです。古銭は輸入銭で、北宋の「元祐通寶(げんゆうつうほう、初鑄年は1086年)」であることがわかっています。縄文土器や石器の出土は、近くに縄文時代の遺跡があることを教えてくれます。

4 まとめ

檜原遺跡の第2次調査によって、当時の人々の暮らしの様子がいろいろとわかりました。調査により明らかになったこと、および今後の調査・研究の課題を整理すると次のことがあげられます。

1. A区の掘立柱建物跡は、板堀や区画溝などの付属する施設を含めて、出土した陶器、古銭が流通した中世の遺構と考えられます。
2. A区の大小の溝跡は、建物を区画したり囲んだものと推測でき、当時の居住域は、調査区の北や南の方向にさらに広がっていたものと考えられます。B区では、調査区東側を蛇行する河川跡から土器が多数出土したこと、竪穴状遺構が見つっていることなどから、集落の中心は川の東側に存在すると考えられます。
3. B区西側の焼土遺構の性格は、不明な点が多く現在のところ類例を調査中ですが、土師器焼成や製鉄、鍛冶などの生産にかかわる遺構、あるいは火を使った祭祀(さいし)の場であった可能性などが考えられ、今後の調査・研究課題です。

今回の発掘調査にあたっては、事業者である国土交通省山形河川国道事務所、南陽市教育委員会、そして地元の方々のご協力とご支援によるものが多々ありました。あらためて感謝申し上げます。また猛暑や雨の中、発掘作業に従事された作業員の方々にも深く感謝の意を表します。

X20

X30

X40

X50

X60

X70

X80

Y90

檜原遺跡第2次調査

遺構配置図

(S=1:800)



A区 空中写真



調査区の近くにある板碑



礎板のある柱穴



焼土遺構



竪穴状遺構



SX806



河川跡



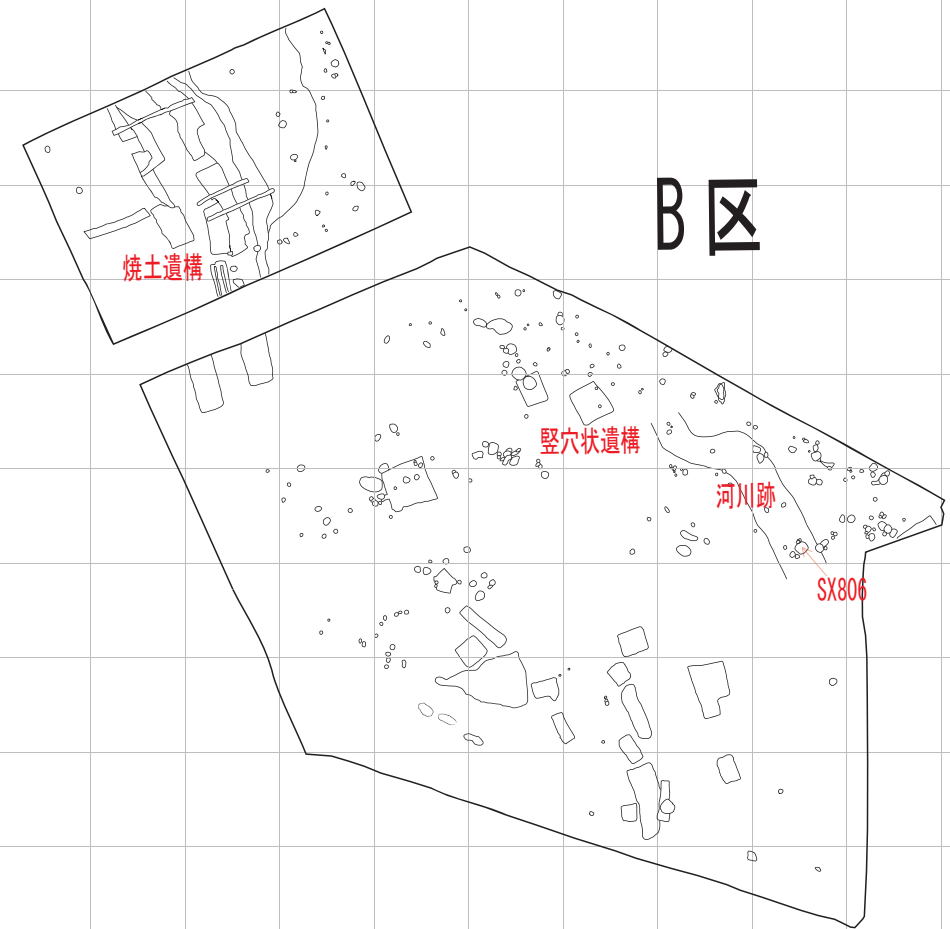
掘立柱建物跡



堀跡



区画溝



井戸跡 (立板の井戸枠)



井戸跡 (素掘り)



縄文土器

Y50

Y60

Y70

Y80

Y90